

伊達 140

発行日 令和3年12月20日

発行者 伊達地区小学校長会
会長 高野孝男

編集 同 広報部

《 巻 頭 言 》

先輩校長先生方からの教え

伊達地区小学校長会副会長
佐々木 誠一郎
(伊達市立大田小学校長)

令和3年度も感染症防止に向け、各学校が様々な対策を施しながら教育活動を推進している。運動会、宿泊学習、修学旅行等々学校行事一つとっても、校長をはじめ教職員一人一人が子ども達の安全・安心のために心を砕いてきたのではないだろうか。一刻も早く終息を願うばかりである。

さて、コロナ禍はもとより、校長としてリーダーシップを発揮し、責任を持って学校経営を行っていく上で、私が常日頃指標としている先輩校長先生方の三つの教えを紹介したい。

1 やらないと決断して後悔するよりもやると決断して後悔した方がいい

校長昇任が決まり、お世話になったお礼の宴でのK元校長先生の言葉である。校長は常に判断、決断に迫られる。教職員の意見を聞きながらも最後に決めるのは校長である。やって失敗した結果を次の仕事に生かすことや、やっていたら良かったと後悔するのが一番良くないこと等を経験をもとに語ってくださった。何かを決めるときには熟考しながらいつもこの言葉をかみしめている。

2 校長と教頭の仕事は紙一重だから

校長昇任が叶わなかった反省会酒席のでのA元校長先生の言葉である。法律で各々の職務内容は規定されているが、日々の仕事では校長にできることは大方教頭にもできる。仕事量からいえば圧倒的に教頭の方が多く、頭が下がる思いである。しかし、紙一重の部分もあることを校長職を拝命してから実感した。責任である。学力・体力向上、不祥事防止、家庭・地域との連携等学校としてなすべき全ての業務に責任をとらなければならない。

考査に落ちたことへの慰めのお言葉だったかもしれないが、今に至って、この紙一重という言葉が持っている意味を重く受け止めている次第である。

3 伊達の人材を育てろ

今も学校経営上の悩み、問題についての的確な指導、助言をしてくださる、私が師と仰ぐY元校長先生の教えである。

伊達地区の教職員を育てること、中でも学校経営の中心的な担い手となる優秀な管理職を育てることは、その地区の教育の発展に大きく寄与するものである。何も伊達地区さえ発展すれば良いといっているのではない。各地区の先達が、その地区に貢献する人材を育てることによって、それぞれが発展し、総じて福島県ひいては全国の教育がよりよいものになっていくはずである。Y元校長先生は、そこまでお話はされなかったが、一人一人は微力であっても、各地区で皆が同じ思いで人材の育成にあたればきっと日本の教育はこれからも発展するだろうとお考えになったに違いない。

伊達地区に勤務し、育てられ、お世話になったことへの恩返しに、後継者を育てることは校長としての責務と考える。「伊達の人材を育てろ」は、間もなく教職を離れる自分に渡された「任」のバトンである。

以上、心に留めている三つの教えを述べさせていただきました。この他にも、日々指導・助言、励ましのお言葉を様々な方からいただいている。これからも、それらを胸に、謙虚に、丁寧に、責任を持って、そして校長先生方と協力しながら職務に励んでいきたい。

《 特 別 寄 稿 》

県小教研家庭科部会伊達地区大会をふり返って

伊達地区小教研家庭科部長 緑 上 隆
(伊達市立伊達東小学校長)

昨年度は、県小教研伊達地区大会(二年次)が新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止となりました。今年度も新型コロナウイルス感染症が収束せず、三年次となる本大会の安全で有意義な開催方法について、小教研伊達地区会長様や県家庭科研究部長様他関係者の皆様と、感染状況を踏まえながら検討をすすめてまいりました。

その結果、半日での開催、授業公開はオンラインでの実施といたしました。また、各地区からの参加者は代表1名とさせていただきます。特に、オンラインでの授業公開は、大会として初めての試みであり、国見小学校様のご協力をいただき、試行錯誤しながら準備をいたしました。

大会では、県の研究主題のもと、「『自分でもできる』という思いを広げる子供の育成」を伊達地区主題として、実践研究をしてきたことを発表いたしました。グループ協議では、各地区の悩みを共有したり、効果的な指導方法について話し合ったりすることができ、実りの多い協議となりました。全体指導では、福島県教育庁健康教育課指導主事左雨貴子様より、コロナ禍での家庭科の進め方や家庭科における「主体的、対話的で深い学び」

などについて、わかりやすくご指導いただきました。

参加者からは、実践の具体例をたくさん知ることができ、日頃の実践の様子を直に感じることができた素晴らしい研究大会であったとの言葉をいただきました。

大会を通して感じたことは、新型コロナウイルス感染予防対策のため、家庭科においても学習活動の制限がありましたが、各部員が新しい生活様式に沿った学び合う学習活動に積極的に取り組み、効果があった実践について共有するという、大きな成果があったことです。

最後になりましたが、本大会を開催することができましたのは、伊達地区小学校教育研究会会長高見良典先生をはじめとして、会場を提供いただきました国見町立国見小学校長本多康弘先生、伊達地区の校長先生方、伊達市、桑折町、国見町の各教育委員会様のご支援のおかげです。心より感謝申し上げます。また、伊達地区の実践を他地区にも広げるとともに、他地区の実践を指導の参考にしたいという部員の熱い思いが、大会を支えてくれました。



〈第5学年「生活を支えるお金と物」の授業の様子〉



〈各地区代表による研究協議の様子〉

《 先 輩 よ り 》

多くの方々に感謝、そして今後のご検討を！

前伊達市立伊達小学校長 三 村 隆 二

昨年度末に伊達市立伊達小学校を退職いたしました。在職中、校長先生方にはたくさんのご支援・ご協力を頂きましたことに改めて感謝申し上げます。昨年度は新型コロナウイルス感染防止対策に追われた一年間だった印象が強く残っておりますが、今年度も昨年度以上に学校経営が困難な一年間だと拝察いたします。現在は落ち着いておりますが、今後第6波がいつ、どのタイミングで起きるかまだまだ心配はつきないことと思います。

さて、私は伊達地区では教諭として9年、管理職として8年、合計17年間勤務させていただきました。その間、諸先輩の先生方をはじめ、地域や保護者のたくさんの方々にお世話になりました。その方々のお力添えで無事退職することができたと改めて感じております。

4月からは、桑折町の保育所でお世話になっております。新採用が桑折町の小学校で、その後現職中は地元での勤務が叶いませんでした。しかし、退職後また勤務でき、地元の子どもの健全育成に何らかの形で関わることができ大変幸せに感じております。教育と保育の違いに戸惑いを感じることもありますが、子どもたちを育むことは何ら変わりません。現在は、0歳児から3歳児までの成長の大きさに驚かされるとともに、純真無垢な子どもたちに、日々癒やされています。保育所経営も学校経営同様、コロナ対策が大変重要となっております。「マスクができない、ワクチンが打てない、抵抗力が弱い」子どもたちをどう守っていくか日々悩み、対応に追われる毎日です。

微力ながら、学校現場を応援します

前伊達市立梁川小学校長 二階堂 康 男

伊達地区小学校長会の皆様には、大変お世話になりました。本当にありがとうございました。校長会が懐かしく思い出されます。早いもので校長職という重責から離れ、8か月が経とうとしています。少し肩の荷がおりたように感じ、お陰様で毎日を有意義に過ごしています。

現在、私は、伊達市教育員会教育部学校教育課で、教職員指導員という立場で仕事をさせていただいております。学校教育の業務に関わらせていただいていること、特に、学校訪問等で授業を参観する機会に恵まれていることをありがたく思っております。

学校教育課では、市教職員研修講座を中心に、図書館教育、社会科教育等、教職員の研修関係を主な業務としています。今、学校では教職員の育

成、特に若い先生方の育成が喫緊の課題となっております。学校現場の声を聞きながら少しでも役に立つ研修講座の企画・運営等に努力し、教職員の育成をサポートしていきたいと考えています。

また、様々な学校現場の課題に立ち向かっていらっしゃる校長先生方のご活躍の様子を伺うことがあります。簡単に解決できる課題ではありませんが、常に前向きに取り組んでおられる校長先生方のお姿にたくましさを感じております。校長職は激務ですので、お体には十分に気を付けられ、益々ご活躍されることを祈念いたしております。

結びになりますが、今後とも微力ながら学校現場を応援できればと思います。何かとお世話になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。



《先輩より》

新たな学び直し

前伊達市立上保原小学校長 伊藤 久美子

「日々、学び直しの人生」だなどと考えて生活しております。教諭時代、管理職時代、そして再任用教諭時代と、多くの子どもたちと教職員の方々のお力で、毎日が学び直し。そのお陰でどれほど自分自身を成長させていただいたことか、感謝するばかりです。本当にお世話になりました。

そして、今、これっぽっちも想像していなかった体調を崩してしまい再任用教諭を退職、娘守り(?)と孫守りの日々を過ごす毎日です。多くの方々にどれほどのご迷惑と御心配をおかけしたことか……。当然ではありますが、伊達に足を向けて寝ることはできません。しかし、退職を機に新たな学び直しをすることができました。当たり前の学習指導や生徒指導に悩む、答えが見つからない、また悩む。これまでの自分の言動を振り返

る、答えを探ろうともがく、でも答えが見つからない。どこかに光を見つけようと暗闇を歩き回る、でも見当たらない。これまでの経験が邪魔をする。悪循環の毎日。一人で突っ走ってきた私が、夫や娘、先生方、ドクターの話にじっくりと耳を傾け、退職を決断し、現在に至ります。頭でっかちだった自分自身が壊れていく様を目の当たりにし、多くのことを考え、学ぶことができました。

「還暦」を「赤ちゃんに還ること」とはよく言ったものです。今年の2月、丑年生まれの私は柳津に出かけていました。あの大きな地震とともに虚空藏菩薩様が「まだまだ、これからが新たな学び直しの人生である。」と、私を大きく揺さぶってくれたのかもしれませんが。子育ての学び直しもじっくりと取り組みたいと思っています。

お世話になりました

前桑折町立睦合小学校長 旗野 宣久

桑折町立睦合小学校を退職して、半年がたちました。在職中は教頭の時から、伊達地区小学校長会の皆様には大変お世話になりました。校長同士の横の連携は、学校経営に当たってたいへん役立ちましたこと、改めて御礼を申し上げます。

在職中は社会と学校を取り巻く環境は大きく変化し、学校に求められる内容も変わりました。

さらには、東日本大震災と原子力発電所の事故、新型コロナウイルスの感染拡大など、これまでに経験のない事態への対応にも追われました。特にまだ収束の見通せない新型コロナウイルスの感染拡大防止にあたる校長先生方のご苦勞の多いことと思います。

さて、私は4月1日から桑折町の中央公民館で

公民館運営推進員として勤務しています。おもに成人教育や地域学校協働活動を担当しています。外から見ている時と違い、学校との違いに慣れないこともあって、先例に倣いながら進めてきましたが、今後は、見通しをもって少しでも改善を加えられるようにしたいと思います。

また、出勤と退勤の時刻をはじめ生活のリズムも大きく変わりました。時間的にできた余裕を、健康や体力の維持と向上にどうつなげるか考えながら過ごす日々です。

校長先生がたもご自身の健康に留意され、職務を進めて頂きたいと思います。

本当にお世話になりました。

編集後記

ご多用の中、玉稿を賜りました前校長先生方並びに校長先生方に心より御礼申し上げます。お寄せいただいた原稿を読ませていただきますと、お一人お一人の言葉に胸が熱くなります。これからも、先輩の校長先生方から引き継いできた「伊達は一つ」を胸にとどめ、伊達地区の子供たちの幸せのためにさまざまな場面での連携を深めていきましょう。新型コロナウイルス感染症の収束を願いつつ、ここに140号をお届けします。